

「水害のないまち市川」の 実現を目指して

私は東国分一丁目少年時代を過ごし、今は新田四丁目に住んでおります。いずれも「水害に悩まされてきた地区」でありますので、「水害のないまち市川」を実現することが私の政治家としてのライフワークの一つです。

そこで、初当選以来この5年間、私は台風・浸水対策に関する調査を続け、日常活動や一般質問を通じて改善策を提言して参りました。幾つかの成果としては、浸水被害の際に真っ先に駆け付ける本市水防班を含む水防本部体制の強化や土嚢ステーションの拡大なども挙げられますが、国分川調節池周辺の各種対策や冠水の恐れがある際の市川駅南口ゆうゆうロード商店街への土のうの設置などは、

特に大きな効果が期待できます。

現在、本市では大和田ポンプ場の建設工事（平成29年供用開始予定）と市川南7号幹線の整備を進めておりますが、その後も市川南ポンプ場の建設工事や高



土嚢設置の効果が期待される市川駅南口ゆうゆうロード商店街

谷・田尻地区における幹線管渠の整備、更には（これらは県の事業ですが）大柏川第2調節池の整備と派川大柏川の改修、行徳地区における中江排水機場の能力増強整備と、「水害のないまち市川」を実現するための課題はまだまだまだたくさん存在します。これからも調査と監視を続けて参りますので、皆さまのご意見もぜひお聞かせください。

（文責 越川雅史）

介護を取り巻く 問題について

介護保険制度ができて16年が経ち、「在宅での介護」を中心に施策が進められています。その中でもデイサービスの充実が利用者、家族にとって在宅での介護の質を高め維持するために不可欠なものです。その利用者の方から「デイサービスでの『お泊り』が常態化している」との声をきき、平成24年度より調査に取り組みました。

平成26年3月、千葉県が『お泊りデイ』サービスを実施している事業所を調査・公表したことを受け、同年6月定例会における一般質問でこれを探り上げ、本市の現状と課題を問いました。福祉部長より答弁を伺う中で、「本市でも16事業所が『お泊りデイ』を実施しているものの、ほとんどの事業所に『スプリングカラーがない』、『宿泊室の定員やプライバシー



深刻化する介護問題

シー保護の配慮がない」といった課題があることが判明しました。安心安全に利用するためには、設備の充実とともに、詳細な仕様を規定する必要があることが分かりました。平成27年4月30日には、国から「指定通所介護事業所等の設備を利用し夜間及び深夜に指定通所介護等以外のサービスを提供する場合の事業の人員、設備及び運営に関する指針について」が発表されました。千葉県が所管する事業所もこれに準拠することになり、本市ではどのように対応していくのか本年6月定例会で一般質問を行う予定です。

（文責 秋本のり子）

絵本館創設が目標

今年で議員生活10年目になる。教育の現場の声をモットーに活動しているつもりである。現場で働く仲間や地域の方々からの相談も少しずつ増え、何かしらの役に立っていると考えるようになった。

私自身は学校図書館に長く携わってきたので、市川の図書館については強く関心がある。そこで初当選以来、学校図書館のあり方について調査をし、これまでの一般質問でも、繰り返し採り上げてきた。また、公共図書館の民営化にも違和感がある。市川市の動きに引き続き注視していきたい。

これまで調査を続けてきてやっぱり思うことは、「子どもにとっても、大人にとっても、」本の世界は必要である」ということである。ミヒヤエル・エンデの『モモ』に出てくる

誰も自殺に 追い詰められない事 のない社会の実現

元旦に40代の男性から年賀状が届きました。「元旦私の命を助けてくれて本当にありがとうございます」というメッセージが、生活のために借金をし「多重債務」状態でした。自殺を考えた事もあったのですが6年前からのライフワーク、日中に皆さんのお宅を伺い、困り事や意見を伺う活動の際に相談いただき、弁護士の方の力を借りて問題を解決できました。いろいろな活動をしています。これに勝る活動はありません。「市川市は30・40代の自殺者数が多い。ならば、直接、出勤時等に相談窓口を周知するのが効果的。」と思い、人の集まる駅等で活動を続け、市の活動も相

時間どろぼうのような人ばかりになったら、人は生きていけない。夢や希望や志をもつことは、人の生活を豊かにし、感性を育み、世界が広がると信じている。

その証拠に、市川市では、年間298万冊の本が図書館を利用して読まれ、読みきかせも盛んに行われている。大人も子どもも憩える「絵本」を中心とした「絵本館」を市川市北部に用意したい、というのが議員としての目標の一つである。今年度から準備に入る予定である。

（文責 湯浅止子）



市川市中央図書館

まって、30・40代の年間自殺者数を減らす事ができました。しかし、10・20代の自殺者数が増えており、毎年80人の人が自殺で亡くなっています。失わなくて良いはずの命が多く失われているのは、政治や行政が正しく機能していないからです。私自身の無能さ・うまくいかない現状を悔しく思いますが、苦しんでいる方をひとりでも多く減らしたいという想いです。生きるための支援をしたいです。「誰も自殺に追い詰められない事のない社会」そんな市川市を実現します。

（文責 増田好秀）



市川市自殺対策計画後期実施計画

地球温暖化や 人口減少、高齢化等に 取り組んでいます

昨年末パリで開かれた国連気候変動会議（COP21）で採択された「パリ協定」は、すべての国が化石燃料と決別し、低炭素社会へ向かうことを求めています。ビジネスチャンスの到来であるにもかかわらず、本市の取り組みは遅れています。2月定例会代表質問で取り上げたところ、エネルギー産業の振興について調査研究を行うとの答弁を引き出すことが出来ました。

この国の生産年齢人口は約20年前から減少局面に入っています。本市はこれまで住宅都市として生きてきました。これからは産業がないと生きていけません。食料やエネルギーは、需要は多いが供給が少ないことから、これからの成長分野です。農水産業を振興するため、引き続き行政と共に、ブランド化や、6次産業化や、後継者不足解消等に取り組んでいきます。

本市は、車を運転できない高齢者等にとっては、極めて住みにくい街になっています。移動の自由が保障されていません。北西部と南部では、交通不便地域があるにもかかわらず、まだコミュニティバスが走っていません。行政が主体となつて早期実現を図るよう、引き続き岩盤崩しに取り組んでいきます。

皆様のご意見もぜひお聞かせください。

（文責 長友正徳）



市南部を走るコミュニティバス「わくわくバス」